

カーコンビニカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み 8,000円（※）に含まれています。さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

（※）



※9年カーリースの場合
ボーナス月加算あり

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません

カーコンビニ倶楽部が コミコミ
カーコンビニカーリースの
お申込みお問い合わせは **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00
カーコンビニカーリース 検索 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19大滝ビル

未来を判断する経営的な視点

日韓が10年以上途絶えていたシャトル外交を再開し、友好的な関係になろうとしている。韓国の年間の車の生産台数は376万台、2022年の自動車保有台数は2507万台、人口の自動車保有率が48.5%（2021年日本の乗用車世帯保有率が77.9%）、日本にとって大切な市場である。

また、日本における韓国の市場も、今最も韓国が力を入れているのが半導体やアニメなどのコンテンツであることを考えると（手元のLINEも韓国発）、大きな外交的要素である。

それに加えて、工業製品や農業生産物の友好的な貿易、つまり、輸出入の積極的な取り組みを考えると、実に大きな歴史的な一日だった気がする。

地理環境や国際情勢などの要素を考えると、両国が競争していく風土を持つのではなく、むしろもっと近い兄弟のような間柄になり、世界の環境問題などにアジアのリーダーとして対応していくことが求められていくのではないかと。いずれにしても、韓国における南北の問題も、現在の状況ではメリットがあるのは軍需産業だけで地政学的なリスクを考えれば、ある種の友好関係になるのは時間の問題だ。

その方が自然で、その方があらゆる意味でメリットがある。少し前の年賀状で考えた言葉がある。それは「共創」という言葉だ。すべてのものをライバル視して競争するよりは、すべて協力し合う関係の中で、今世紀を生きていくという思想である。

地震の対策や温暖化現象に対する車社会での対応など、車を取り巻くあらゆる商品が変化している。今後とも地域の特性を生かしながら、その上で地球のエネルギー対策や進化する車と会への対応を考えていくべきだと思っている。その上で最も必要なことは、20世紀型の発想ではなく、毎日送り込まれてくるデータを、目の前の情報を、的確に把握して選択をし、未来を判断するという経営的な視点である。



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:ハル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役就任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任